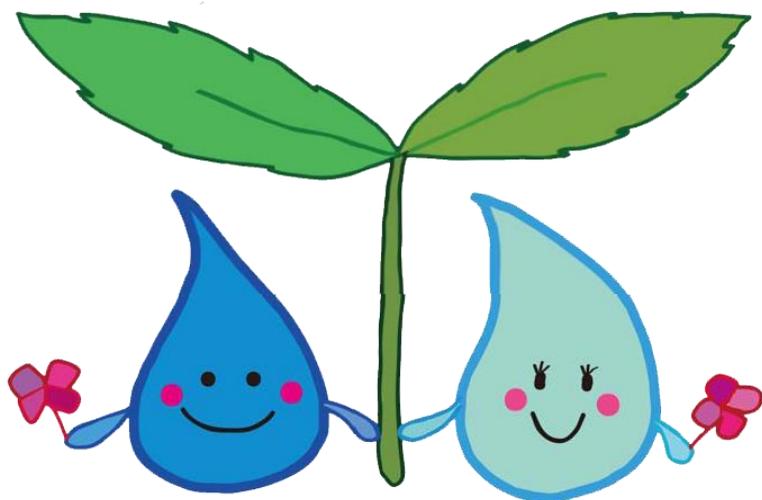


第35回

開成町福祉作文コンクール

入選作文集



みずたまちゃん



社会福祉
法人

開成町社会福祉協議会

福祉作文コンクールは、「ともに生きる福祉社会づくり」をめざし、次代を担う町内在住の児童・生徒を対象に実施し、作文を通して社会連帯を基調とした福祉への理解と関心を深め、福祉活動への主体的参加意識を育成することを目的に行われております。

第35回を迎えた今回は、町内の小・中学校合わせて209編の応募がありました。小・中学校別に、予備審査（校内）および町審査会を経て、優秀賞6編、優良賞4編、佳作10編を決定いたしました。

本作文集は、入選された20編の作文を掲載しております。どの作文も、自らの体験を通じて感じたことや考えたことが作者の言葉で書かれています。この作文集が大勢の皆様目に留まり、思いやり、助けあい、支えあいの気持ちが社会全体に広がっていくことを期待しています。

本コンクールに参加した小・中学生の皆さん、ご指導にあたられた先生方、ご家族の皆様、ご多忙のなか審査していただきました審査員の皆様に、心からお礼申し上げます。また、ご協力いただいた、開成町教育委員会、開成小学校、開成南小学校、文命中学校の皆様にも深く感謝申し上げます。

令和5年10月

社会福祉法人開成町社会福祉協議会
神奈川県共同募金会開成町支会

審査にあたられた方々

順不同／敬称略

開成町教育委員会	小林裕史
開成町立開成小学校	加山寛子
開成町立開成南小学校	鍵和田 真梨子
老人クラブ連合会	小川周作
身体障がい者福祉協会	遠藤伸一
地域支援センターひまわり	建部彰良
民生委員児童委員協議会	小田 猛
開成町福祉介護課	奥津亮一
開成町社会福祉協議会	高橋政幸

第35 回開成町福祉作文コンクール入選作文集

小学生の部

優秀賞

◆開成町社会福祉協議会長賞◆

すてきな言葉

開成6年

やまだ
山田 紗羽 すぎは

∴ 1

◆共同募金会開成町支会長賞◆

私と、仲間のやさしさ

開成南6年

まつばら
松原 志帆 しほ

∴ 2

◆開成町教育長賞◆

音楽の力

開成6年

うえだ
植田 結菜 ゆいな

∴ 3

優良賞

ぼくが見つけた福祉

開成4年

こんどうかなこ
近藤佳菜子

∴ 4

僕にできる福祉

開成6年

おぐり
小栗 行真 いくま

∴ 5

佳作

高齢者の生活の関わり

開成6年

平栗 ひらぐり

匠海 たくみ

∴
6

マタニティマークの大切さ

開成4年

椎野 しいの

夢乃 ゆの

∴
7

インクルーシブ公園

開成4年

高橋 たかはし

千佳 ちか

∴
8

人と触れ合う大切な居場所

開成6年

安池 やすいけ

優斗 ゆうと

∴
9

半日の子どもたちのふれあい

開成南6年

増田 ますだ

裕斗 ひろと

∴
10

中学生の部

優秀賞

◆開成町社会福祉協議会長賞◆

世代を超えた地域交流

文 命3年

竹内 勇太
たけうち ゆうた

∴ 11

◆共同募金会開成町支会長賞◆

ありがとうって伝えたかった

文 命3年

三浦 美岬
みうら みさき

∴ 13

◆開成町教育長賞◆

繋げていく笑顔

文 命2年

小野 紗陽香
おの さやか

∴ 15

優良賞

私の大切な人

文 命3年

小澤 あかり
おざわ

∴ 17

音楽で元気になってほしい

文 命3年

上野 倅菜
うえの ゆきな

∴ 19

佳作

「ニワニワニワトリガイル」	文	命3年	田代木 <small>たしろこのか</small> の風	∴	21
高齢者の一人暮らし	文	命3年	内藤 <small>ないとう</small> さらさ	∴	23
共に支え合い、生きていく	文	命3年	遠藤 <small>えんとう</small> 寛果 <small>ひろか</small>	∴	25
普通の幸せ	文	命3年	遠藤 <small>えんとう</small> 滉大 <small>こうだい</small>	∴	27
よりよい開成町にするために	文	命3年	清田 <small>きよた</small> 拓海 <small>たくみ</small>	∴	29

■作文の中、「障害」という言葉を「人や人の状態」を表す場合は、「障がい」と表記しています。

小学生の部

優秀賞

◆開成町社会福祉協議会長賞◆

すてきな言葉

開成小学校

6年

山田

紗羽

やまだ

すずは

私のおばあちゃんは六年前、病気で左の手足が不自由になりました。つえや車イスなど補助がないと一人で歩く事も難しくなりました。今年の夏、おばあちゃんが不自由になってから初めて家族旅行に行きました。いつもは慣れている家で会っていたので、今まで気にならなかった事が、気になるようになりしました。それは、おばあちゃんが使う言葉です。

おばあちゃんは、人に道をゆずってもらったり、周りの人に手伝ってもらったりするとよく「ごめんなさいね」や「すみません」と謝ってばかりです。私は、おばあちゃんがなんでいつも「ごめんなさいね」「すみません」と言うんだろうと不思議に思いました。今のおばあちゃんは一人じゃできない事が多

いから、まわりに迷わくをかけていると思って謝ってしまおうと言っていました。私は、不自由な所はないけれど、できない事はたくさんあります。その度、お母さんや周りの人に助けてもらっています。私は、助けてもらったなら「ありがとう」という感謝の言葉を伝えます。おばあちゃんもそうでいいんじゃないかと思います。「ごめんなさい」は謝る時に使う言葉だし、おばあちゃんが病気になったのも、手足が不自由になったのも、おばあちゃんのせいではないからです。

私は、おばあちゃんに「迷わくじゃないよ、ありがとうでいいんだよ」と伝えると、「そうだね」と言ってくれました。感謝の言葉は、言う人も言われた人も温かい気持ちにしてくれる素敵な言葉だと思います。

優秀賞

◆共同募金会開成町支会長賞◆

私と、仲間のやさしき

開成南小学校 6年

松原 まつばら 志帆 しほ

私は、生まれつき筋疾患があります。この症状で、私は周りの人より力が弱く、運動が苦手で、体がやわらかいです。そして、筋肉が全体的に少ないです。私が五年生の二月下旬、クラスメイトと校外学習中に階段をふみ外してしまいました。その時に、さっきの病気が原因で、左ひざを脱臼してしまいました。たまたまお母さんが校外学習の付きそいで来ていたので、すぐに早退して家で安静にできました。そして、すぐに病院に行きました。そこで、痛みが続くようであれば車いすを使用してくださいと言われました。なので、開成町の福祉会館で車いすを借りました。そして、私の車いす登校が始まりました。

まず、学校の昇降口まで、お母さんにおしてもらいます。そして、ぞうきんでタイヤをふいてもら

ます。そのあともお母さんがくるのかな？と思っていると、クラスメイトがやってきて、

「あ、おはよう。車いすなんだね。大丈夫？手伝おうか？」

と、声をかけてくれました。なのでお言葉に甘えて、手伝ってもらうことにしました。すると、他にもクラスメイトが四人来て、

「私たちも手伝うよ！」

と言ってくれました。そして、車いすを教室までおしくれました。ランドセルの片づけや、教科書の準備も手伝ってくれました。移動教室の時も、クラスメイトや先生がおしてくれました。帰りも、早く帰りたいはずなのに、昇降口まで手伝ってくれました。

この経験では、私はいろいろな人に助けられました。福祉はサービスだけでなく、人々の助け合いもあるんだなと思いました。私も、同じように困っている人がいたら、積極的に手伝いたいです。

優秀賞

◆開成町教育長賞◆

音楽の力

開成小学校

6年

植田 うへだ 結菜 ゆいな

私は音楽教室に通っています。普段はピアノの弾き方を教わっています。この教室では、年に数回イベントがあります。それは、開成町にある老人福祉施設で音楽会を開くことです。教室に通っている児童何人かで、施設にいる人達に向けて、歌を歌ったり、けんばんハーモニカで演奏したり、一緒に遊びをしたりします。

最初は、大きな声で歌うことができませんでした。それでもたくさんのおじいさん、おばあさん達がニコニコ楽しそうに手拍子をしてくれたり、一緒に歌を歌ってくれたりしてくれました。中には涙を流しながら、

「かわいいね、ありがとうね。」

と何度も言いながら、私の手をにぎるおばあちゃんもいました。その様子を見ていたら、私もうれしくなり、徐々に声を出して歌うことができました。

私の家族はお父さん、お母さん、お兄ちゃんの四大家族です。そのため、お年寄りと接する機会がほとんどありません。それなのに、年の差に関係なく、一緒に歌い、音楽の力で一体感を感じられたことに不思議な気持ちになりました。あまり人前で歌ったり、演奏したりすることが得意ではありませんが、喜んでもらえて、とてもうれしかったです。

福祉について、普段ほとんど考えることはありませんでしたが、こうしたちよっとしたことでも喜んでもらえることがわかりました。難しいことはまだわかりませんが、これからはお互いに幸せな時間を共有できるように意識しながら行動したいです。現在はコロナの影響もあり、演奏会は行われていませんが、今後、演奏会の活動が再開されたら、ぜひ参加して、笑顔で歌いたいです。

優良賞

ぼくが見つけた福祉

開成小学校

4年

こんどう
近藤

かなこ
佳菜子

ぼくは、夏休みに初めて横はまに電車で行きまし
た。その日にぼくは、いろいろな福祉を見つけれ
た。

初めて見つけたのは、ホームではせんろに人が落
ちないように工夫されていたことや、エレベーター
のボタンの近くに点字があったことです。

そして、電車の中に「ゆうせん席」という席があ
りました。ぼくがのった電車のゆうせん席には、も
うどう犬をつれた人がすわっていました。もうどう
犬はその人の下でおとなしくすわっていました。

ぼくは小さな弟と一しよに出かけたので、母がベ
ビーカーをおしていたのですが、かいだんもエスカ
レーターも使えず、エレベーターをさがしました。
でもなかなかエレベーターがなくて、まいごになっ
てしまったので何人かの人に聞いて歩き回り、やつ

と見つけました。その後もホームに行くときに、エ
レベーターがないかいきつから入ってしまったので、ぼくと妹が弟と一しよにかいだんをのぼり、母
はベビーカーをかついでやつとホームにつきまし
た。

ぼくたちは、弟が大きくなったらベビーカーをそ
つぎようできるけど、車いすや体のふじゆうな人は、
そういうわけにはいかないのでたいへんだなど実
感しました。

ぼくは、総合のじゅ業で「福祉」ということを学
ぶまで何も気にせずすごしていたけれど、気にして
みたら、いろいろなところが工夫されていてすごい
なと思いました。でも、やっぱりぼくが気づいてい
ないところでも、こまっている人はたくさんいると
思います。ぼくたちにできることは、こまっている
人は何でこまっているのかを知って、何ができるか
を考えたいです。

優良賞

僕にできる福祉

開成小学校

6年

小栗 行真
おぐり いくま

今年の夏休み、自治会の親子教室でゴミ処理場へ見学に行きました。そこでは、ペットボトルを回収し、プレス機で塊にする作業をしていました。キャップやラベルがついているペットボトルがいくつもあり、作業員さんが手作業で取りのぞかなければならず、大変そうでした。プラスチックゴミが混入している事もあります。ペットボトルに似たプラスチック容器があるため、まちがう人がいるそうです。ラベルを見て、きちんと分別してほしいと処理場の人が言っていました。

家の近くの資源ゴミ置き場でも、分別されていないゴミが出ています。ゴミを捨てに行った時、そんなゴミを目にすると嫌な気分になります。ルールを守れていないゴミに、自治会の役員さんも困っていました。ルールを守れていないゴミが一つ

あるだけで、地域の印象が悪くなったり、同じように分別せずにゴミを出す人が増えてしまうかもしれません。

福祉というのは、体の不自由な人や、支援を必要とする人へのサポートだけではなく、「みんなが幸せになれるよう」に取り組む活動や仕組みでもあります。毎日の暮らしの中で、嫌な気持ちになると、幸せな気分にはなれません。まわりの人に迷惑をかける、ルールを守って生活するという事も福祉の一部ではないかと思えます。自分ができることをやるだけで、まわりの人たちも気持ちよく、幸せに暮らせると思えます。

僕は、去年から町のクリーンデーに参加しています。はじめは母に言われて嫌々参加していましたが、今では楽しく参加しています。町がきれいになることで、誰かの心をうれしくすることができたらいいなど思ったからです。それが、今の僕にできる福祉です。

佳作

高齢者の生活の関わり

開成小学校

6年

平栗 ひらぐり
匠海 たくみ

ぼくのおばあちゃんは、今までとても元気で、仕事や家のことを色々していました。

でも、病気になる入院をしてしまいました。治療をして一か月後に退院しましたが、家に帰ってきてからも、直ぐに今までのようには動くことはできませんでした。

おばあちゃんのできた事を家族が分担して、助け合ってやっていました。ぼくもおばあちゃんの家
の近くに住んでいたら、自分ができる事をしてあげたいと思いました。おばあちゃんには家族がいたので、生活ができて元気でいられる事ができたけど、もしも一人だったら、どのような生活になっていたのか考えてみました。調べてみると、その地域にある地域包括支援センターに連絡することで、介護、福祉、医療についての相談ができます。今の住み慣れ

た地域で、安心した生活が続けられるように考えてくれる場所でした。介護者、医療従事者、福祉事業者など大勢の人が関わることを知りました。

今は、少子高齢化社会なので、高齢者も自分のことは自分でできるように、日々の健康管理をして、病気の可能性があれば病院に行くなどをして、自分の体を守ることが大切だと思いました。また、家族や友人など人との関係を持つことで、お互いに助け合い解決をする力となって、地域との関係がより深く保たれた生活が幅広くなっていきます。

今自分ができることは、健康を維持していくことと、行く先々で困っている人を見かけたら、助けをあげることが大切だと思いました。

ぼくは将来、福祉に関わる人になりたいと思います。

佳作

マタニティマークの大切さ

開成小学校

4年

椎野^{しいの} 夢乃^{ゆの}

私のお母さんは、八月に出産する予定の妊婦さんです。お母さんが、運転する車で買い物に一緒に行った時のことです。お母さんが、遠くにとめて歩くのが大変なので、ゆう先ちゆう車場にとめようとなりました。けれど、車イスマークしかない時は、とめられませんでした。

マタニティマークとは、妊産婦が交通機関等を利用する時に身につけ、周囲が妊産婦への配りよをしやすくするためのものです。私の家の車や、お母さんのかばんにもマタニティマークをつけています。何か体調が悪くなった時や、困った時に周りのの人に助けてもらえるようにとお母さんが言っていました。

妊娠初期は、おなかはまだふくらんでいないため、外から見ても、ふつうの人と見分けがつかないから、

マタニティマークをつけていると周りの人が気づいてくれていいと思いました。よく見る車イスのマークは、車イスの人だけではなくて、全てのしょうがい者にたいして使われているものです。車イスマークの所とは別に、思いやりちゆう車場利用せいでというのがある県もあって、利用しようをもつていれば妊産婦の場合だと、妊娠7カ月から産後6カ月の人まで利用できるそうです。神奈川県ではまだしつかりとしたせい度は、できていないみたいです。たまに大きなスーパーに行くとき、マタニティマークが書いてあるちゆう車場もありました。そういうちゆう車場があるときは、お母さんも車をとめていました。買い物をした重たい荷物を妊婦さんが運ぶのも大変だし、おなかが大きくなってきたら、歩くのも大変なお母さんを見て、もっと安心してとめられるちゆう車場がふえるといいなと思います。こうした小さなことから新しい命が守られているんだなと感じました。

佳作

インクルーシブ公園

開成小学校

4年

高橋 千佳
たかはし ちか

わたしは、公園で遊ぶことが大好きです。放课后や休みの日に、家の近くの公園で友達と遊ぶのほとても楽しいです。わたしは友達と楽しく遊べるけど、体の不自由な子はこの公園で楽しく遊べるのかな、と思いました。

ある日、テレビを見ていたら「インクルーシブ公園」という公園があることを知りました。インクルーシブとは、えい語で「すべてを包みこむ」という意味で、子どもも大人も、しょうがいがあるかないかに関係なく遊べる公園のことをいいます。遊具のブランコには、体を支えるためのせもたれが付いています。すべり台には、車いすの子も遊べるようにスロープが付いています。公園の地面は、転んでもけがをしにくいようにゴムチップが付いてあります。はでな色の組み合わせを見るとつかれてしまう

子もいるので、遊具はやさしい色合いになっているようです。このように、インクルーシブ公園は、だれでも遊べるように考えられた公園になっています。わたしはインクルーシブ公園がいろんな場所にふえて、みんなが楽しく遊べるようになったらいいなと思いました。

でも、歩けない子や立っているのが大変な子は、遊具のじゅん番を待っているのがむずかしい時があります。その子が遊具を使うのをあきらめてしまったら、せつかくのインクルーシブ公園がもつたいいと思います。その時は、わたしが「先に使っていないよ。」と声をかけてあげたいです。声をかけるのは、少しゆう気があるけど、インクルーシブ公園でみんなを思いやる気持ちを持てたら、きっとみんなが楽しくてうれしい最高の遊び場所になるんじゃないかな、と思いました。

佳作

人と触れ合う大切な居場所

開成小学校

6年

安池 優斗
やすいけ ゆうと

八月四日、金曜日に僕は開成町にある福祉センターで行われた「ほのぼのサロン」に参加しました。参加しようと思った理由は、高齢者の方と直接触れ合った事があまりなかったので、高齢者の方に直接会って一緒に過ごしてみたかったからです。

ほのぼのサロンには、町内のお年寄りの方と、その方々を支えるスタッフの方が沢山いました。

今回のテーマは、海をイメージしたモバイルの工作を高齢者の方と作りました。工作をしながら高齢者の方とお話しをしました。高齢者の方を見ると、目が見えにくそうで手先を使うのが大変そうに見えました。僕は「手伝いましょうか。」と声をかけました。その方は、「ありがとう」と言ってくれました。その方は八十代のTさんという方でした。Tさんは、首から自分の紹介の名札をかけていて名前と好き

なことが書いてありました。好きな事は「人と話す事」と書いてありました。

母の方を見ると、Tさんと楽しそうに会話をしている様子が見えました。母に帰宅後、話を聞くと、「色々な人生の中で、その方が歩んできた話を聞いていたんだよ。」と聞きました。

Tさんは、この場所で人と触れ合い話す事を喜びと感じているのだと思いました。

話す事が大好きと言っていたので、僕も母のように笑顔で話せるようになりたいと思いました。

僕にも友達や家族と触れ合う居場所が必要なものに、Tさんのような高齢者の方々にとっても、このような人と触れ合い話せる場所が、必要で大切なんだと実感しました。

佳作

半日の子どもたちのふれあい

開成南小学校 6年

増田 裕斗
ますだ ひろと

ぼくは、夏休みを利用して、就学前の小さい子を預かる小田原市障害児通園施設のつくしんぼ教室に、ボランティア活動に行きました。最初は緊張してしまい、どのように接したらいいのかわからずに自分が固くなりすぎてしまっただけで、だんだん時間とともに会話も増え、仲良くなることができました。そして、今日お互いが初めて会ったと感じないほどに仲良くなることができました。

ボランティア活動内容は、主に一緒に遊んだり勉強のサポートをしました。スムーズに行くために、子どもたちが喜ぶかわい絵を用いて次の行動を示していく工夫がなされています。

当日は天気にも恵まれたので、水遊びもおこないました。水遊びでもキャラクターのまどにむかって水鉄砲を打つ遊びもしました。水を怖がる子がいな

かったので驚きました。水遊びは手や足、目や耳など体全体で水とふれあうため、さまざまな感覚が磨かれていくので子どもたちにとってよい遊びだと感じました。

最後に福祉の仕事は楽しいと思えるようになり、たくさんの人との関係が築ける場所なんだなと思いました。さらに、子どもたちは、支援が必要だったのに関わらず、自分たちの力だけでも生活することができました。ぼくは、福祉の仕事に深い関心を持ちました。また、このようなボランティアをできる機会があったら積極的に参加したいと思います。

中学生の部

優秀賞

◆開成町社会福祉協議会長賞◆

世代を超えた地域交流

文命中学校

3年

竹内

勇太

たけうち ゆうた

夏休み中に、中学生地域交流ゲームに参加しました。当初はゲートボールに興味がなく、早朝の練習にも気が進まなかったのと、見ず知らずのお年寄りの方との関わり合いをためらっていました。初日の練習で初対面のおじいさん達から、ゲートボールのルールと打ち方を教えていただきました。一対一でやさしく丁寧に接していただきました。ゲーム形式が始まると、自然と夢中になっていて自分がいて、一生懸命になっていると、指導をしてくれるおじいさん達に気持ち伝わったのか、喜んでもらえている気がしました。二日目には朝早く集合し、練習することが苦でなくなっていました。それは、敵、味方のボールを打ったり打たれたりする度に興奮し

て没頭していたからです。また、釣竿を使ってボールの進行方向を楽しくアドバイスしてもらえたり、とても和やかな雰囲気であつという間に時間が過ぎました。六日目の最終練習後に指導して下さった方々と全員で集合写真撮ることが出来ました。皆とても充実している顔であつた印象が残っています。はじめは、お年寄りの人と思っていた人たちをもはや大先輩と思えるようになっていました。

大会の日を迎えました。早朝から暑い日でも、指導してくれた先輩方、全員が集まって下さり、とても安心した気持ちで大会に臨むことが出来ました。一回戦目に町の青少年指導員の方と対戦。試合中も安定したアドバイスを下さり、いつもの釣竿の指示で緊張をほぐしてくれたり先輩方のあたたかい気持ちと、勝たせてやりたいという気持ちが十分に伝わりました。おかげ様で二回戦目も勝利し、次は決勝戦という時に大雨が降り大会は終了してしまいました。私たち中学生と先輩方の気持ちは、決勝戦に出なかった、出してやりたかったという語らいで盛り上がった事を覚えていきます。その後、感謝の気持ちを伝え記念に撮った写真を添付した色紙を渡し、交流会を終えました。

この大会に参加し、気がついた事は、先輩方が心から楽しみ真剣にゲートボールをプレーし、指導して下さったので、私たちもその楽しさにふれて夢中になれた事、スポーツをきっかけとして、家族ではない地域のひととの交流を持つことの大切さと、一つの目標に向けて世代を超えた心の繋がりを経験する大切さを知り、とても有意義な時間を過ごしました。これはひとえに地域の皆様、学校の先生そして先輩方のおかげです。

初めは気が進まなかった行事でしたが、こんなに楽しいと思えた交流会が今年で最後と決まっています。これは、各自治会のゲートボール人口が減っているためだと知りました。だとしたら、老若男女関係なく楽しめるスポーツだと知ってもらうために、体育の授業やレクリエーションに取り入れて、ゲートボールにふれる機会を増やすべきだと思います。同時にこのような交流を絶やしてはいけないとも思いました。理由はこの交流会を機に普段会えない地域の人と知り合えたことよって、何か災害などで困った時は近くに住む方を気兼ねなく、自ら進んで力添えできる気がします。今回は助けてもらってばかりでしたが、次は自分も助け支えられるよ

うな心に余裕がある大人になりたいと思えたからです。そして、自分もいつか歳をとった時、このような交流会に積極的に参加できるイキイキとした素敵に歳を重ねられる人になりたいと思いました。

大会後に、祝勝会を兼ねた食事会が出来なかった事がとても残念でした。お礼として渡した色紙をゲートボールの小屋に飾ってくださっていると知り、感動しました。中学三年生という忙しい時期でありましたが、この交流会に参加して夏の深い思い出になりました。私たちを指導して下さった先輩方への感謝の念に堪えません。

優秀賞

◆共同募金会開成町支会長賞◆

ありがとうって伝えなかった

文命中学校

3年

みうら
三浦 みさき
美岬

英語のリスニングテスト開始。頭の隅には別の事が沈みながらも必死に解いて無事、模試が終了した。塾まで迎えに来てくれた父の車に兄が乗っていた。九州で一人暮らしをしているのに帰省して驚いた。私はのちにその理由を知ることになる。

三月十一日夜。母のラインに私の祖父から連絡が来た。「酸素濃度が下がったので救急車に乗って病院にいる。今から向かってほしい」と。祖父母の家は横浜にある。行動力の強い母は直ぐ様出かける支度をした。父も行くと言いだし、私も行きたいと頼んだが弟と妹を任されてしまった。まさか救急搬送されるほど悪化していると思わなかったので怖くなり涙が止まらなくなった。一人で大泣きしながら耐えきれずに兄に電話したことを覚えている。

私のおばあちゃんはいつも私の家を手伝いに横浜から来てくれていた。パワフルでよく食べ、なまけていると怒るけれど私達の事をいつも応援してくれていた。しかし、一月頃から「年を取ったな」と私は感じていた。もう七十五歳だし当たり前かと小さな変化を気にしないでした。おばあちゃんは同じ時期からカスカスした咳をしていた事は母も弟達も気づいていたので薬を促したり、病院を勧めたりしていた。だが一向に回復しなかった。母が仕事に行っている時、おばあちゃんは一階で寝転んでいる事が多くなった現状を私は一番間近で見ているし、苦しそうな咳が聞こえると不安とイラ立ちが混ざる事もあった。そしてある日、私の家に手伝いに来れなくなってしまった。おばあちゃんは病院が嫌이었다が母が祖父に、「お願いだから今すぐ病院に連れていけ」と言った。その結果は、がんだった。

ステージ4の子宮がんから肺に転移し肺が真っ白になっていた。余命は一週間ほどかもしれないと医師に告げられ、「今ならまだ歩けるから会いたい人に会っておいたほうがいい」と言われたらしい。しかもおばあちゃんは元々看護師だったから自分の病気にも気づいていたはずなのに私達に何も言っ

てくれなかった。病気を言ってくれば何が何でも会いに行つたし、会いたかった。もつとしゃべりたかった。おいしい料理を食べたかった。おばあちゃんは日頃の私達の生活の忙しさが分かつているから邪魔をしないように黙っていたらしい。おばあちゃんは絶対不安だったし、想像するだけで怖いと思うのに何もできなかった自分が悔しい。今この作文を書いている時も涙が止まらない。そして三月十二日の十四時頃息を引き取った。おばあちゃんは生涯現役の人生に後悔はないと言っていたと祖父から聞いた。こっちは後悔だらけなのに。

亡くなった事を模試が終わって晩ごはんを食べている時に伝えられたから頭が真っ白で信じられなかった。介護用ベッドも用意していると祖父から聞いていて、お見舞いに行こうと思っていた矢先に現実を知ってしまった。

私はドラマなどを見て前から医師という仕事に少し興味を抱いていた。今回の事を通して「医師になりたい」と思うのが一般的な感想だろう。正直、お葬式で触ったおばあちゃんの顔が冷たくて人の死が怖くなった。命の重さを実感し、なんで大人や

医師は死を受け入れられるのか不思議だった。でも、こうして人は強くなっていくんだと気づいた。

きつと母も相当シロツクだった思うのに、普段と変わらなかつた。子供達を悲しませないために強がっているだけかもしれない。私は母が安心して私の前で泣けるように人の気持ちに分かる大人になりたい。そのため一秒一秒の会話や態度を大切にそして後悔のない人生を送りたい。それを教えてくれたのはおばあちゃんでした。

おばあちゃん、ありがとう。

優秀賞

◆開成町教育長賞◆

繋げていく笑顔

文命中学校

2年

小野 おの 紗陽香 さやか

「おばあちゃん、どうしてこんなこと知ってるの？」

小学生だった私は、目を輝かせて尋ねた。

「おばあちゃんも昔、教わったんだよ。」

と言いながら、祖母は私の手のひらをキュッキュッとマッサージしてくれた。私が勉強や楽器の練習で疲れたと愚痴をこぼすと、

「どれ、かしてごらん。」

いつも私の手を取るのだった。

祖母のマッサージは意外と力強い。でもなぜかふんわりもしている。きつと祖母の笑顔がそう感じさせるんだと思う。そして最後はいつも指を一本一本引っ張るようにして終わるのだった。ほんの一、二分間のことなのに、なぜか気持ちもすっきりして、また頑張ってみようと思える不思議なマッサージ。

訪問看護師さんにしてあげて、喜ばれた事もあったそうだ。

「お互いさまだからね。」

と祖母はまたうれしそうに笑った。座椅子で居眠りしていたり、忘れっぽいことも多いけれど、私はそういう時の祖母の笑顔が好きだ。

そんな祖母が今年亡くなった。わりと急な出来事だった。だんだんと歳を取り、いつかそんな日が来るとわかっていたつもりだったけれど、私は覚悟ができていなかったと思う。

中学生になってから忙しく、あまり会いに行けなかった。でも電話で近況報告したり、会えた時に一緒に写真を撮ると喜んでくれた。私が学校行事で大役を任せられ、不安に思っていた時には、励ましてくれたので、自信を持って臨むことができるようになり、とてもうれしかった。

人間はだれでも独りでは生きづらいと思う。特にお年寄りには寄りそわなければと思っていた。祖母にしてあげられたことも、もつとあったはずだ。でも思い出してみても、祖母の人生について知らない事も多かった。聞いてみたくても、もう祖母はいない。もつと話せばよかったなと後悔した。

祖母が人生で成し遂げてきた事や、大切にしていた事についても話してくれていたら。いや、もっと尋ねていたなら、それは本人が人生を振り返るという意味だけでなく、家族や周りの人にとっても知恵を残すことになったと思う。

これから加速していく高齢化社会の中で、高齢者にもっと積極的に社会参加してもらうことが必要になるだろう。さまざまな世代の人達がコミュニケーションをとることが大切だ。私たち若い世代が、お年寄りのお話を聞くだけでもいいと思う。昔のことを思い出して人生を振り返ることは、人生の意味の再発見になるだろうし、聴くほうには新しい発見があるかもしれない。祖母には充分にしてあげられなかったけれど、お話を聴く事は、気負わずに多くの人のできる事だと思う。それが違う世代をつなぐきっかけにもなるだろう。

祖母がいなくなつて、気がついた事がある。看護師さんにマッサージをしてあげたり、私を励ましてくれたり、祖母はできる範囲で、自然な形で社会参加していた事を。私は寄りそつてあげなきゃと頭で考えていたけれど、実は祖母にとっても支えられていたのだ。

母が時々、同じように私の手のひらをマッサージしてくれるけれど、やっぱり祖母の感触とは違う。でもそれでもいいと思う。一人一人が自分が感じた良い経験や記憶を周りに伝えていけば、世界は少しずつ優しくなっていくと思う。そしてみんなが幸せな社会になればいい。私も友達にマッサージをしたら、

「気持ちいいね。」

と笑ってくれた。そんな時、私はいつも祖母のふんわりした笑顔を、残してくれた知恵を思い出す。まだ祖母がいらない事実に覚悟は持てないけれど、その良い記憶をこれからも繋いでいきたいと思う。

優良賞

私の大切な人

文命中学校

3年

小澤 おざわ あかり

私の祖母は、視覚障がい者です。祖母の病気は、生まれつきのものでなく、四十五歳ぐらいの時に発症しました。視覚障がいの中でも様々な見え方があるといわれていますが、祖母の場合は、視野障がいです。病名は、網膜色素変性症という病気で、遺伝子のキズが原因で、光を感じる網膜が少しずつ障がいを受ける、難病指定されている進行性の病気で、この病気は、約五千人から八千人に一人が発症するといわれています。日本には約二万四千人もの患者がいます。また、現在の医療では網膜の機能を元に戻したり、確実に進行を止めるといった治療法はありません。この病気は、視野がどんどん狭くなってしまうので、視野に入る部分は見えますが、周囲の状況が分かりにくく、足元の段差に気づかず、躓いてしまうことがあります。なので、出かけるとき

は、誰かの補助が必要です。私が一緒に出かけるときは、左腕を貸しつかんでもらい、歩くようにしています。階段やちよつとした段差でも、「段差あるよ」などと声をかけています。このようなことをしていると、私と同年代の人や小学生から、変な目で見られることがあります。私は、そういう目で見られても嫌な気持ちにはなりません。ですが、障がいを持っている人への理解ができていないのだな、と少し残念な気持ちになります。また、障がいを持っていて人を見て、「可哀想だね」と言う人がいますが、決して可哀想ではないと私は思います。障がいを持っているからって、何もできない訳ではありません。少し苦労することは多いかもしれませんが、一人でできることだってたくさんあります。祖母は、家事を全てこなしています。ただ、料理をするときに調味料を計ってあげたり、洗濯物の靴下をペアでくっつけてあげるなどの手伝いはしています。私が小学生のとき、障がいを持っている方のお話を聞ける機会がありました。そのとき、「できることを奪ってはいけない」と聞いたことを、今でも覚えています。祖母が料理をしているのを見て、包丁で指を切ってしまうのかな、と心配になることはあります。で

すが、上手にできているので、祖母が困っていると
きだけ助けるようにしています。休日の日には、一
緒に散歩に行つてたくさん話したり、夜ご飯を一緒
に食べたり、今自分がしてあげられることをしてい
ます。

私は、障がいを持つている方が、暮らしやすい社
会になってほしいと思っています。そのためには、
より多くの方が障がいについての理解と知識が必
要だと思います。祖母には、元気に笑顔で生きてい
てほしいです。

優良賞

音楽で元気になってほしい

文命中学校

3年

上野

倅菜

うえの ゆきな

私のひいおばあちゃんは、私が生まれた時に長い間面倒を見て来てくれました。私が少し大きくなってからも、遠くから新幹線を使って遊びに来てくれていました。そんなひいおばあちゃんが、少し前に、ベッドから落ちて骨折して入院しました。退院してから、一人で生活する中で、薬を飲み忘れたり、逆にたくさん飲んでしまったり、買い物したものを食べないままになってしまったりすることが多くなってきたそうです。

私は小学4年生の時から、地域のジャズバンドに参加してトランペットを吹いています。中学校では吹奏楽部に所属してトランペットパートを担当しています。

小学生の時、習ったばかりのジャズの曲を聴いてもらおうと、ひいおばあちゃんの家にとランペット

を持って遊びに行ったことがありました。トランペットの音はとても大きいので、ひいおばあちゃんが近くで聴いてびっくりしないか心配でしたが、大丈夫そうでした。後で、祖母に聞いたら、耳が聞こえ難くなっていたのだそうです。色々な曲を吹いていると、ひいおばあちゃんは、「上手だね。だけど、ばあちゃんはその曲知らないよ。」と言いました。そこで母と相談して、最初に習った「ふるさと」を演奏することにしました。「ふるさと」を聴きながら、ひいおばあちゃんは「うさぎ追いかの山…」と、歌い始めました。それを見ていた祖母と母は泣いていました。私は、ふるさとを演奏した後、とても嬉しく思いました。ひいおばあちゃんが演奏を聴いて昔を思い出して歌を口ずさんでくれたり、四世代で共通の歌を聴いて、それぞれの立場でさまざまな想いがあることが分かったからです。

ひいおばあちゃんは、それからしばらくデイサービスに通いながら生活していましたが、祖父母も介護のプロの方々の力を借りた方がお互いの生活にメリットとなるという考えで、今は施設で生活しています。コロナ禍で、面会が制限されてしまい、私にはしばらく、ひいおばあちゃんに会うことができて

いません。またトランペットを聴いて歌ってほしい
と思っていました。それが難しいので、オンライン
で通話をしたり、私が演奏している動画を祖父母
に送ってみてもらおうようにしています。

このひいおばあちゃんとのやりとりのおかげで、
私は自分の演奏した音楽でリラックスしたり楽し
んだり、昔を懐かしんでもらったりしてもらえるこ
とが、とても嬉しく感じました。

医療や介護、福祉や教育の現場では、手助けの必
要な方に直接、接する仕事もあるけれど、音楽を演
奏することで、少しでも気持ちや心がリラックスし
たり、元気になってもらえるような仕事に就くこと
ができたら…と考えるようになりました。人の心を
動かす演奏ができるトランペッターになりたいと
思いました。

そのためには、音楽だけでなく、たくさんの経験
や勉強が必要になってくると思います。私の大好き
な楽器や音楽が人に与える無限大の可能性を信じ
て、勉強していきたいと思っています。

私が幼稚園の時には、夏休みに文命中学校の吹奏
楽部の演奏を聴く機会があり、すごい！なんて素敵
なんだろうと、憧れたことが今でも思い出されます。

福祉の現場だけでなく、小さな子どもたちにとつて
も音楽にふれることは良いことだと思います。残念
ながら、私が逆の立場で演奏する機会はありません
でしたが、学校や地域、町などが連携して、より多
くの人々が音楽を身近に感じることができるよう
な町になっていくことが理想だと考えています。

佳作

「ニワニワニワトリガイル」

文命中学校

3年

田代たしろ 木の風このか

音声訳は朗読とは違う。私たちは視覚から日々、多くの情報を得て生きています。本や新聞、ちらしなど。その情報を声で目が見えない人、見えにくい人に伝えるのが音声訳です。

この夏休み、音声訳体験に行きました。主催はかいいいせい音声訳ボランティアの方々。毎月一日発行の「広報かいいいお知らせ版」を音声訳する活動を行っている方々です。体験のはじめにボランティアの人は、「書いてあることをできるだけ忠実に音声化する」ことが原則、「上手に読む」「感情豊かに読む」のではなく、「正しく伝える」「正しく伝わる」ことが大切、間違えて読んだり、読み手の勝手な解釈で読み替えたり、余分なことを付け加えたりすることもできない、忠実に音声化することが大切だと言いました。

「ニワニワニワトリガイル」あなたはこの文を読んでどの意味で解釈しただろうか。「庭には二羽鳥がいる」「庭には鶏がいる」「二羽庭には鶏がいる」実は、一つの文で三つの解釈ができてしまうのです。そこで大切になってくるのがアクセントです。庭・二羽・には・鶏、アクセントをどこに置くのかで間違った意味でとられないようにすることが大切です。

「7月」普通なら「シチガツ」と読むでしょう。しかし音声訳では、「ナナガツ」と読みます。それは「7(しち)」と「1(いち)」は聞き間違えやすいからです。また読み手によって変わっても、聞く人が聞きにくいので、音声訳では7はすべて「ナナ」と読むように統一されているのです。

その後、実際に広報かいいいせいの記事の一部を音声訳し、その難しさを体験しました。とくに、普段は使わない漢字の羅列なんかがあるとうわっと思う。つかえたり間違えたりして非常に難しいです。何度も間違えやすいフレーズを読むと読みやすくなる。アドバイスをもらいました。このようなフレーズがあっても淡々と読むことができるボランティアアさんはやっぱりすごいなと思いました。

音声訳を聞くのは本来、目が不自由で見えない、見えにくい人です。何も見えない暗いなか、音声だけをたよりに情報を得ます。聞く人がだれなのかを考えると、声量、速さ、声のトーン、文のくぎり方など、全てにおいて気をつかう必要があります。

そんなプレッシャーの中、ボランティアさんたちは数人で、六年前から月に一回、「声の広報」をとどけています。月に一〇〇〜二〇〇回聴かれているので「ちゃんとがんばらなきゃ」と思えるのだとか。しかしそれを聞いたよという声や、感想はまだ聞いていないそうで、どんな人が聞いているのか知るために聞いてみたいそうです。

私は、「声の広報」はこの体験をきっかけに知りました。目の不自由な人でも平等に情報を得られるようにするこの活動はとても素敵だと思いました。だからこそこの活動を続けてほしいし、もっと多くの人々が、みんながこの活動について知って、関心を持ってほしいです。

佳作

高齢者の一人暮らし

文命中学校

3年

内藤 ないとう さらさ

私の祖母は岡山県で一人暮らしをしています。以前は祖父と二人暮らしでしたが、祖父が病気で亡くなり、今は一人で犬を飼って暮らしています。このような高齢者の一人暮らしは増加し続けています。高齢化社会、核家族問題などよく聞く言葉ですが、私の祖母もその問題に直面していると思い、いろいろと考えるようになりました。

祖母の家はとても山奥にあり、近くに駅やお店はありません。車がないととても不便な場所です。祖母は65才で、車の運転もできるため、買い物や病院は一人で行かれています。しかし、冬は雪が降るので大変です。庭から広い道路に出るまでの道を雪かきしなければ外出できません。私は神奈川県に住んでいるため、年に一〜二回、長期休みの時に岡山の祖母の家へ遊びに行っています。一人暮らしの祖母

が、大きな家を一人で管理するのはとても大変そうです。庭の草とりだけでも何時間もかかります。まだ元気に動ける祖母で、膝や腰が痛くなったり、すぐ疲れたり、自分でも「年をとったな」と思うことが増えたそうです。そして、自分の老後のことを考えると、とても不安になると言っていました。山奥なので、まわりに家も少なく、一日誰とも会わない、会話しない日もあるそうです。犬の散歩に出歩いても、誰の顔も見えない日もあると聞いた時は驚きました。私の住んでいる開成町では考えられないことです。田舎での一人暮らしの様子を実際に聞いて、自分が考えていたよりも、ずっと孤独で、不安なのだと思います。

高齢者の一人暮らしの問題点は様々あります。孤独死、認知症の進行、詐欺や犯罪、生活意欲の低下、病気の不安、自然災害の時に対処できない、などです。実際に祖母も大雪が降った時は雪かきに苦労しましたし、詐欺のような電話が自宅にかかってくるのが時々あるそうです。ふだんあまり人と接することがないため、誰かに優しい言葉をかけられると、だまされそうになると言っていました。私は遠くに離れて暮らしているので、ビデオ通話で祖母の様子を

知り、気をつけて暮らしてねと伝えました。時々電話やメールを送って祖母とつながりをもつようにしています。

生きていく中で、人とのつながりはとても大切です。高齢者が孤立しないように、地域やまわりの人々とながっていける社会作りが必要だと思います。祖母は最近学童のパートを始めました。一週間に二回ですが、小学生の小さな子供達と過ごしているそうです。宿題を見たり、一緒に遊んだり、授業参観に行ったりするそうです。最近の流行の遊びを子供達から教えてもらったり、祖母が昔遊びを教えたり、普段の生活に変化ができたと楽しそうに話していました。このように、高齢者が活やくできる場所があることは良いことだと思います。地域の中で、みんなが人とのつながりを感じられる社会を作り、高齢者が人のために何かできるという実感を得たり、地域に頼れる人がいる、という安心感をもてるような暮らしが理想的だなと思いました。

佳作

共に支え合い、生きていく

文命中学校

3年

遠藤 寛果
えんどう ひろか

「じいじ、おはよう。」

「おう、おはよう。」

その言葉から一日が始まるが、次に交わす言葉は寝る前の「おやすみ」だけだった。今も少し後悔が残っている。あの時、もつと話していたり、一緒に出かけたり出来れば良かったのにと。

これは、私が中学一年生のときの話で、祖父はその年の秋に他界した。

祖父と一緒に暮らすことになったきっかけは、バイクに乗って出かけた時に転倒し、ケガをして歩行困難となり、車イス生活になってしまった為である。買い物や食事、排せつも一人では出来なくて、母が介護のできる体制を整えて、一階の和室を祖父の部屋として迎え入れたのが、小学六年生になったばかりの春だった。祖父は身長が高く、体重もあったた

で、車イスからベッドに移動する時は転ばないよう支えるのが大変だったけど、母がいないときは私も手伝うようにしていた。

車イスとベッドはレンタルの物を使っていたらしいのだが、ケアマネージャーさんに相談したり、病院の先生とも祖父にとって良い暮らしができるように訪問看護で看護師さんに来てもらったり、いろいろな人に支えてもらいながら祖父と一年半一緒に暮らすことができた。

デイサービスに週二日通うことになり、そこで入浴介助をしてもらったようで、家の中だけで過ごすよりも出かけることで、母の負担も少し減っていた。祖父もデイサービスでレクリエーションに参加して、いきいきと過ごせて良かったのではないかと思う。

祖父は、野球や相撲などのスポーツ観戦が好きだったので、元気な時は運動会や私が行っているテニスの試合を見に来たりしてくれたのがうれしかった。

祖父は八十三歳で亡くなったのだが、高齢の割に頭はしっかりとっていて、多分その秘けつは新聞をよく読んでいて、その中に数字のクロスワードがあ

り一生懸命に取り組んでいたからではないかと思う。

祖父と一緒に出かけられるように、車イスでそのまま乗れる福祉車両に買い替えをしたのだが、祖父の体調が急に悪化してしまい、どこにも行かれず他界してしまった。本当は、景色の良い所やマイナスイオンが感じられるパワースポットと一緒に行きたかったのに残念でならない。

今、ハワイのマウイ島で火事の被害がひどいようだが、もし車イスの祖父と一緒にいて地震や災害など起きてしまったらどんなに大変だったかと思うと恐ろしいと思った。

この世の中が平和で豊かに暮らしていけるのは、福祉が充実しているおかげなのだと思う。現在は生まれる人口が減少していて、将来、助けが必要な人の方が多くなると思う。

私は、祖父との思い出も大切に、少しでも誰かの役に立つ仕事ができればと思っている。そのためにも、私が今の時点でできることは、困っている人を見かけたら声をかけるなど、少しでも行動をするこ
とだと思ふ。

「共に支え合い、生きていく」この言葉を忘れず、
今日も過ごしていきたい。

佳作

普通の幸せ

文命中学校

3年

遠藤 滉大
えんどう こうだい

「福祉」という言葉を聞いた時、僕は高齢の方や体のどこかに特徴を持った人が生活しやすいように支える医療的なものだと考えていました。しかし、「福祉」という言葉を辞書で調べてみると「幸せ、幸福、生活の安心や充足」と書いてあり、高齢の方や体のどこかに特徴を持った人だけではなく、生きている全員が幸せに暮らせることを表す言葉だと知りました。そして、福祉という言葉は父の姿を表しているなど思いました。

僕の父は消防士として働いています。人の命を守り、安心して暮らせる社会を守る仕事です。そのため地域を守る消防士という仕事も福祉と関連していると考えました。消防士は火災が発生した現場へ急行し、消防車などを用いて消火作業をする活動だ

けが仕事だと思われていますが、それ以外にも大きく分けて3つの活動を行っていると聞きました。

1つは救急車に乗って、病院に着くまでの処置をおこなう活動です。119番を電話すると「火事ですか、救急ですか」と聞かれるのは消防士がどちらの対処も準備ができるからです。また、救急活動をおこなう消防士は救急救命士の資格を取っていることも多いそうで、病院への搬送中、医者と協力して医療活動を行うこともあるのだと知りました。

2つ目は事故や自然災害の現場から取り残された人を助けるために山や被災地に行く救助活動です。

3つ目は設備の点検などをおこなうことで、火事を予防する活動です。情報収集のためには地域の人のコミュニケーションも欠かせないそうです。また、学校など公施設で定期的に消防・防災訓練の指導も行っています。どの活動も命がけで、人の命を救う働きです。父は大型車の免許を持っているため消防車やはしご車、救急車の運転を行っており、多くの災害現場に向かったと聞きました。父が消防士であることに母は、「常に死と隣り合わせだから、当たり前前に帰ってきて楽しく話せることに毎日感

謝している」といつていました。小学生くらいの僕は、父がそれだけ大変な仕事を行っていることを理解していませんでしたが、消防士が担っている仕事は火災現場の消火活動だけでなく安全なまちづくりのための予防活動も行っています。このように様々な活動を通して人の幸せな生活を守っていることが分かった。

自然災害からの復旧の手伝いに出動していた父が帰ってきて、いつもは見せないつらそうな疲れた表情をしていました。本人に聞くことができず母に聞くと、災害現場で行方不明者の捜索を行っていた時に、死亡した状態の人や血を流しながら発見された人がいたことを知りました。父は事前に防ぐ働きができる立場だからこそ、災害によって被害にあわれた人に対して申し訳ないと思う気持ちと、現場の状態に心を痛めていたのだと知りました。

消防士以外にも医者や警察官、地域貢献を行う企業で働く人も福祉に携わっていますが、身近で消防士として働く父は誰かのために自ら率先して行動できる勇敢な消防士として強く印象に残っています。

来年、僕は高校生になるけれど今の僕ができることは小さなことで決して父のような人の命を守ることはできません。しかし、父のように誰かのために自分から行動が出来る人でありたいと思いました。僕の小さな親切も社会全体の大きな福祉につながり、みんなが安心して過ごせる、みんなが幸せであることが普通の街を、1人1人の親切から作りあげていけると思いました。

佳作

よりよい開成町にするために

文命中学校

3年

清田 きよた
拓海 たくみ

私は将来、救急救命士になり陸上部で鍛えた体で救命、救助をしたいと思っっている中学生です。私は、よく救急などの番組を見たりするのですが、ある番組で、認知症で一人ぐらしの高齢者がさみしいという理由で、救急車を呼ぶことについて取り上げられていました。

私は、それを聞いたとき正直怒りを感じました。今、全国的に救急車が足りない中、このようなことで利用されてしまうと、本当に救急車を必要としている人への到着が遅れ、救えたかもしれない命が、救えなくなってしまうからです。

しかし見方を変えてみると、その人は本当にさみしくて、孤独感を感じ、助けを求めするために救急車を呼んだのかもしれない。そこで私は、どうしたら、その認知症の高齢者が孤独を感じずに、幸せに

人生を歩むことができるのだろうかと考え、調べてみることにしました。

まず、この日本での六十五歳以上の単独世帯の現在の世帯数は、約五百二万世帯で、少子高齢化が続いていることから、今後ますます増加が見込まれ、このまま増え続けると孤独感を感じる人が増えるのはもちろん、それ以外にも孤独死や生活意欲の低下などのリスクがあります。

それでは、どうしたらこのようなことをなくすことができるのでしょうか。一番良いとされることは、高齢者がデイサービスなどの介護サービスを利用して、入浴や排せつ、食事等の介護、リズム体操などをし、身体機能などを維持してもらい、レクリエーションなどを通じて、他の利用やスタッフとコミュニケーションなどをとり、孤独感も解消することです。またデイサービスは自宅まで送迎などとして、安全な状態と、認められるまで、手厚くサポートしてくれるので、このような福祉が全員に、届くことができたらいいなと思いました。

しかし、実際、そのようなことは難しく、デイサービスも無料という訳ではありません。保険が適用されるサービスもありますが、食事代やおやつ代、

おむつ代などのその他の実費は、保険が適用されないため、自己負担になります。そのため、デイサービスに、通う、通わないはその高齢者と、その家族次第になるので、全員がデイサービスを利用するのは難しいのです。

そこで私は、デイサービスのことについては、中学生の私にできることはありませんが、金銭の負担などではないことで、できることはないかと考えてみました。たどりついた答えは、「近所のみんなで助け合うこと」です。そのために、積極的に町の清掃活動や行事などに参加して互いを理解し合い、困った時や緊急事態の時には周りの人同士で助け合えたら私は、みんなが安心して暮らせる開成町になると思います。

開成町福祉作文コンクール入選作品集(令和5年度版)

令和5年10月発行

発行者 社会福祉法人開成町社会福祉協議会

神奈川県共同募金会開成町支会

〒258-0021 足柄上郡開成町吉田島1043-1 開成町福祉会館内

電話 0465 (82) 5222



この冊子は、神奈川県共同募金会の配分金を活用してつくられました。